

# 担い手通信

2023  
vol. 1

## 人材育成のポイント

# 職務満足度を高めて

農業経営体の従業員の雇用人数が近年、増えています。こうした中で課題になるのが、雇用した人材の定着や育成をいかに図るかです。業務をマニュアル化して誰でも習得しやすくすることや、意欲を引き出す評価の仕組みづくりなどが鍵となります。

## 雇用人数 規模拡大主因 5年で3割増

2020年の農林業センサスによると、農業経営体の雇用人数は全国で110万4330人です。1経営体当たり7.1人を雇用した計算となり、15年の前回調査時の5.3人から増えました。これは、経営規模の拡大が主因です。品目別では養鶏の14人が最多で、養豚の8.6人と畜産が先行しています。収穫や調製などで手作業が多い露地野菜が7.8人、施設野菜が7.6人、花きが7人、果樹が6.8人と続きます。

農研機構本部は「農業は人手の確保が大きな課題。一度雇った人材を確実に定着・育成することが重要になる」（農業経営戦略部）と指摘しています。

## 定着には マニュアルで作業意図共有

同機構は「農業法人における従業員の人材育成ガイドブック」で、従業員の定着に向けた組織づくりのポイントをまとめました。雇用人数が増えればその分、経営者が従業員1人当たりと接する時間も減らざるを得ません。その中でも意図したように従業員に作業を進めてもらうには、作業のマニュアルを策定し、共有できるようにすることが重要といえます。また、新たに雇用した人材の教育にかかる負担を減らせる効果もあります。

さらに、役割分担の明確化も重要といえます。どこで、誰と、どのような作業をするか見通しが立ちやすく

なれば、日々の仕事への責任感や関与が強まり、満足度が高まります。一方、役割分担がなぜ必要か説明が不十分だったり、役割の範囲が狭過ぎたりすると、意欲低下につながりかねません。面談などで従業員の考えを把握し、役割分担を見直すことも必要です。

## 効率化へ 熟練者の技術 4段階で継承

ガイドブックでは従業員育成のポイントも解説しています。作業を覚えてもらうには、①作業をやってみせる②説明する③作業させてみる④不足・修正点を伝えるの4段階での実施が有効としています。

同機構が調査した施設園芸経営では、具体的な取り組みとして①、②段階では、社員らが付き添って指導、写真入りのマニュアル提示、作物の基礎知識に関する勉強会の開催などを実施。③、④では熟練者の作業動画を見せ、作業が速い従業員が遅い従業員を指導しています。

同部は「熟練者の技術やノウハウをマニュアル化して、他の従業員でも担えるようにするのが確実な育成方法だ」と指摘しています。

### 働き手の定着・育成のポイント

#### ▶ 作業マニュアルの作成

経営者の意図したように作業を進めるのに重要。新たな採用者への教育の負担も減らせる

#### ▶ 役割分担の明確化

日々の仕事への責任感や関与が強まり、満足度が高まる

#### ▶ 段階的に指導

①作業をやってみせる②説明する③作業させてみる④不足・修正点を伝える — の4段階での実施が有効

農研機構の「農業法人における従業員の人材育成ガイドブック」を基に作成

(日本農業新聞 2023年2月27日)